

なでしこ通信



令和6年4月10日発行

vol.189

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

御下賜金を賜りました!

～ なでしこが優良民間社会福祉事業施設に選ばれました ～

2月23日の天皇誕生日に際して、民間社会福祉事業奨励のため、県内の優良施設の1か所に対し天皇陛下から金一封が下賜され、令和5年度はなでしこに御下賜金と伝達状を拝領しました。2月22日(木)に県庁で、中村徳久子ども・福祉部長から明和病院なでしこ山川施設長・三重県済生会諸岡支部長へ御下賜金と宮内庁からの伝達状が手渡されました。

今回の栄誉を賜った理由とし

て、なでしこが重症心身障がい児・者や医療的ケア児・者を対象とした長期入所や短期入所等のサービスを提供しており、地域における重度障がい児・者等の受入施設として貢献していることを高く評価していただきました。

これまで諸先輩方、そして現職員がなでしこで少しずつ積み重ねてきた努力と信頼が実る形になったことを職員一同大

変うれしく思い、また支えていただいた多くの方に感謝申し上げます。これからも地域に必要とされる施設であり続けるため、職員一同力を合わせて精進していきます。



心魂オンラインコンサート

～ 歌声で心つながる ～



以前に「コロナ感染対策に配慮した行事を考えよう!」ということで療育部にて検討しました。

バザーや劇、音楽鑑賞を提案しましたが、なかなか実現できずに悩んでいたところ、山川施設長の知り合いの方より心魂プロジェクトを紹介していただきました。心魂プロジェクトとは、劇団四季や宝塚歌劇団出身の俳

優が中心となり、「劇場に来るのが難しいなら、私たちが行けばいい!」と思いを掲げ活動されているみなさんです。オンラインでのコンサートのため、なでしこだけの参加ではなく、家族さんや関係施設の皆様も参加していただき、とても大きなイベントとなりました。初の試みで緊張もありましたが、1月24日(水)「心魂オンラインコンサート」を開催することができました。

当日は“～世界旅行へ出発～”のタイトルをもとに、なでしこ職員が扮するニュースキャスターやバスガイドの動画が流れ、その後なでしこの皆で飛行

機に乗って様々な国へ出発しました。旅先の国々に合わせた美しい歌声が流れ出すと、静かにじっと聞き入る利用者さんやうれしくて発声される利用児さんも見られました。時折スクリーンを通じて「なでしこの皆さん」と声を掛けていただき、こんなに離れていても皆で共に繋がりが、同じ時間を過ごすことができているんだと、とても感動しました。

(保育士：大杉)



下所

「オニさんこんにちは!節分行事」

2月1日(木)皆でフロアに集まって新聞紙を破って遊んでいると楽しくにぎやかな雰囲気に誘われて、オニの国から緑オニさんが遊びに来てくれました。

今年の節分行事では、ピアノ演奏に合わせ「オニは外〜♪」の掛け声とともに、新聞紙をバリバリッと破り、音と感触を楽し

みました。リズムにうんうんと頷いたり、周りのにぎやかな様子に声を出して表現されたり、新聞破りに嬉しそうに臨まれたり、利用者さんも明るく楽しい雰囲気につつまれました。皆で破った新聞は…可愛いオニだるまに変身!最後にオニさんと一緒に「オニのパンツ」を歌って

踊りました。オニさんまた来年も来てね♪

(保育士：堀川)



通所

通所行事 ひな祭り



節分行事を終え、立春を迎えると毎年なでしこ通所にはひな人形が飾られます。今年も利用者さんと一緒にひな人形を飾り、“たのしいひな祭り”の歌を歌いながら『ひな祭り行事』の準備をしました。

今年はお内裏様とお雛様を福笑いのように作り上げる行事を

予定していたので、当日までの創作活動では目、口、鼻、眉毛などの顔のパーツをたくさん作りました。職員と一緒にカスタばさみを使って紙を切ったりクーピーで色を塗ったり、「どんな顔になるのかな〜」とイメージしながらみんなで楽しく

準備をしました。当日はお魚釣りのように顔のパーツを一つ一つ釣り上げ、男の子はお雛様、女の子はお内裏様の顔にペタペタと貼り付けました。できあがったお内裏様とお雛様の横に並び、羽織や髪飾りをつ

けて記念撮影をしました。「理想のお内裏様、お雛様はできたかな?」記念撮影では利用者さんの満足げな顔を見ることができました。

(看護師：大谷)



所… 『卒業生を送る会』に参加! 度会へスクーリング…………



2月22日(木)に度会特別支援学校の訪問教育を受けている高等部のさきさんがスクーリングに行ってきました。さきさんは学校で「卒業生を送る会」に参加されました。

会場に入り、まずは卒業生の思い出の写真をスクリーンで鑑賞しました。卒業される先輩た

ちの学校生活の様子をさきさんは穏やかな表情でみていました。

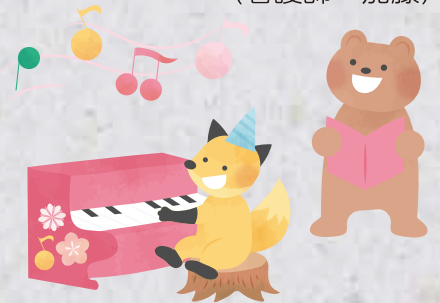
次に在校生から卒業生へ、色紙のプレゼントです。可愛いデザインが施されたメッセージカードを色紙に貼りつけます。これは、授業の中でさき

さんが先生とともに心を込めて書いたものです。在校生が一人一人卒業生に色紙を渡していく中、さきさんも先生に手を取ってもらい直接プレゼントする事ができました。

最後に記念撮影を行い、ご家族や学校のみなさん

に囲まれて和やかな雰囲気ですクーリングを終えることができました。

(看護師：加藤)



所…………… 2月お楽しみ会 開幕! …………… ～ 風船&スカイバルーン～

2月29日(木)にお楽しみ会が行われました。いつもと違う雰囲気に、みなさんキョロキョロと周囲を見渡し、「何が始まるのだろう?」といった表情をされていました。今回は音楽に合わせたバルーン遊びの行事で、ご家族の皆さんも行事に参加できました。スカイバルーンの上

にはたくさんの風船、鈴が乗せられており、綺麗な音色とカラフルな光景になでしこが包まれました。活動が始まるとともに、各々が見て聴いて



楽しんでいる様子が見られました。

コロナ禍による面会の制限は徐々に緩和されつつあります。そんな中で、ご家族と一緒に参加出来るこのような行事があると、少しずつ以前のような日常に戻りつつある事を感じます。面会に来られたご

家族を見る利用者さんの目が喜びに溢れ、こちらも温かい気持ちになりました。

今回の行事を通して、利用者さんの嬉しそうな表情を見る事ができ、また利用者さんと楽しいひと時を過ごせました。

(理学療法士：佐々木)





「地域と共にあれ」 DWAT を能登へ派遣 (青森)

災害時によく耳にするDMATの他に最近ではDWAT・DCATというチーム活動も耳にするようになりました。災害急性期に活動できる機動性を持ったDMAT(災害派遣医療チーム)に対し、被災した特別養護老人ホームなどを支援するために編成されるのが、福祉に特化した災害福祉支援チーム、DCAT・DWATです。DCAT・DWATは、高齢者の日常ケアや急性期医療が不足する事態となった東日本大震災をきっかけに、医療と福祉サービスを総合的に提供する済生会が先行して設置しました。介護福祉士を中心に構成され、災害発生後、避難所などで高齢者、障害者、認知症の人などをサポートしています。

元日に発生した能登半島地震。青森県三沢市の社会福祉法人楽晴会は災害福祉支援チーム「楽晴会DWAT」を始動、職員を被災地に派

遣して支援活動に当たっている。

能登半島地震の被災地支援で厚生労働省から要請を受けた青森県は県災害福祉支援チーム(DCAT)を5陣組み、石川県に派遣。青森県から要請を受けた楽晴会は職員3人を派遣した。支援チームの第1陣は県内の施設職員3人で編成し、後方支援として県社会福祉協議会から1人を派遣した。東日本大震災などの復興支援に携わった経験から「法人の哲学・社是や理念、信条などを職場外で改めて学べた。法人の職員である誇りと感謝の心を忘れずにこれからも“お志事”」と川村夏子・三沢老人ホーム施設長(防災士)は「災害支援派遣活動の記録集」に書いている。

『介護の必要な人の上に立たず、その心に下りて為なすを第一、社会の必要の外に在らず、その中に在りて為なすを第二、当事者と共に地域を耕し、当事者をして社会を照らす』が

社是。理念は「世界の人類愛と地域創造に貢献する」だ。単なる地域貢献ではない、法人の根底・底流には“地域と共にあれ”が脈々と流れている。(2024年2月15日福祉新聞から抜粋)

災害は、人工呼吸器や胃瘻等の医療的ケアを必要とする人とその家族、そして支援者にも大きな困難をもたらします。支援する人たちが協力し、さらに行政や地域の理解が深まり「災害への備え」が充実し始めています。なでしこでも災害時に備えて毎月防災時の訓練を行い、防災対策マニュアルの見直しを行っています。訓練を行って検証し、災害時に的確に行動するための仕組み作りを進めていくなかでよりよいものにしていきたいと考えています。

(看護師：城戸)

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

第9回東海3県小児在宅医療研究会

2月25日(日)第9回東海3県小児在宅医療研究会がウインクあいちにて「医療的ケア児支援センター開設後の医療的ケア児と家族への支援」をテーマに行われました。

研究会に参加して医療的ケア児支援センターの役割や課題について学ぶことが出来ました。その中でも医療的ケア児支援センターは医療的ケア児とその家族から相談

を受けて医療機関や市区町村、学校など様々な機関と連携を取り支援につなげていることが分かりました。私はなでしこで入所の利用者の担当をしていますが、医療度が高い児童が学校に通学したり訪問教育を受けるうえで学校との情報共有、連携は必須です。学校以外でも医療的ケア児とその家族のライフステージに地域や各機関は

切っても切り離せない関係です。今後、今回の研修で学んだことを生かし医療的ケア児とその家族の支援のために各機関からの情報収集に努め、地域の繋がりを大事にした支援を行っていきたいと思いました。

(指導員：一星)

皆様の善意のご寄付に心よりお礼申し上げます。

令和6年1月にご寄付金の

ご厚意を賜りましたので紹介いたします。 **寄付金：50,000円** 職員一同心より感謝いたします。

ご寄付をお願いいたします

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

※なでしこ通信の発行は3カ月に1回となります。 ※本誌に記入されている写真は本人または、家族の了承を得て使用しています。